

色を楽しむ本

「誕生色」というものをご存知でしょうか。バースデーカラーとも言われ 366 色それぞれに色言葉があり、色彩論と占星術を組み合わせたカラーastroロジーが始まりとされています。そこで今回は、様々な形で色を楽しめる本をご紹介します。

1 冊目は、早坂優子/著『マカロン配色見本帖』です。

配色見本と聞くと、なんだか堅苦しい専門書のように感じるかもしれませんが、本書は色の組み合わせをコロンとした洋菓子のマカロンで表現しているため、可愛いもの好きのオトナ女子や仕事疲れで癒しを求めている人におすすめしたい、楽しい配色見本帖となっています。

紹介されているテーマは単なる「○○色」という表現ではなく、「夢の中のワタシのユメ」や「まどろむ曇り空の休日」など、情感あふれる言葉が散りばめられており詩的な美しさがあります。また、それぞれの配色に寄り添うフォントも並んでいるので、パラパラめくると、その日の気分ぴったりな色がみつかるはず。眺めているだけでも幸せな気持ちになれるカラフルな一冊です。

2 冊目は、ポーポー・ポロダクション/著『色彩心理図鑑』です。

色には、配色や条件によって変化する様々な心理効果があります。本書では色の基本要素をはじめ、歴史、文化、由来、メカニズムなど、色彩心理をテーマ別にわかりやすく解説しています。

例えば、「運命の人とは赤い糸で結ばれている」という話も色彩心理のひとつ。この運命の糸が赤い理由は、中国の「将来結婚する相手と赤い縄で足が結ばれている」という逸話とその文化に由来します。古来、中国では“幸せを呼ぶ尊い色”としてお正月や婚礼などの祝いの席や装束を赤で染める風習があり、「チャオ・ホ・ス蕉紅色」や「チン・ホ金紅」という伝統色が好まれます。これらが日本に伝わる際、約束を結ぶ小指が赤い糸で繋がっていると考えられるようになりました。糸は見えなくてもそこには強い運命があると信じられてきたのでしょね。この他にも、個々人に似合う「パーソナルカラー」や文字に色を知覚する「色字共感覚」など、色を知ることで人生がもっと楽しくなる知識が満載です。

3 冊目は、土屋香/著『光る化石～美しい石になった古生物たちの図鑑～』です。

“化石”と聞いてどのような色を思い浮かべますか？多くの人は、茶色や灰色の様な地味な色のイメージが強いのではないのでしょうか。実は世界にはいろいろな姿をした色鮮やかな化石があり、それらは長い年月をかけてゆっくり光り輝く姿へと成長してきました。

「きらめく化石」や「夕陽色の化石」など他 3 章からなる本書では、そんな美しい石たちを地質や古生物の説明を交えて、大きく鮮明な写真で紹介しています。中でも、揺らめく虹色の輝き“遊色”をもつ「二枚貝」や「アンモナイト」、昆虫や植物が生きた姿のまま樹液の中に閉じ込められてできた「琥珀」は格別の美しさをまとっています。これらの化石が宝石のように輝いていく過程に思いを馳せながら、多彩な表情を見せてくれる古生物のタイムカプセルをご堪能ください。

今日ご紹介した本の他にも、日本の伝統色に触れる本や目を引くパッケージデザインの本などもあります。ちょっとした息抜きに、本を通していろいろな色を楽しんでみてはいかがでしょうか。